

会長就任挨拶

Greetings to the Members

2019年6月13日の第61回定時総会において、30名の理事と3名の監事が選任され、総会後の臨時理事会において、新しく会長に選任されました寺井でございます。あらためまして、身の引き締まる思いでございます。これからの2年間新体制のもと、技術士ならびに日本技術士会のプレゼンス向上に全力を尽くす所存でございます。何卒、よろしくお願い申し上げます。

高木前会長のリーダーシップの下、日本技術士会では技術士制度検討委員会を設け、この度、提言「技術士制度改革について」をとりまとめました。また、国におかれましては、科学技術・学術審議会の第9期技術士分科会における審議を経て、「技術士制度改革に関する論点整理」として公表いただいております。

こうした中で、日本技術士会では、技術士制度検討委員会を継続させ、更新制度のスキームとCPDの仕組みづくりに重点化した検討を進めてまいります。また、新たに技術士資格活用委員会を立ち上げ、国際的活用、公的活用、産業界活用を推進していくための活動を開始しているところです。私は会長としての重要な職責として、国の技術士分科会に設置されております制度検討特別委員会ならびに作業部会との連携や刷りあわせを十分に行いながら、迅速かつ適切に合意形成を図っていく所存です。

さて、これから新会長として会務を行うにあたり、難しい意思決定を行わなければならない局面が生じると考えられます。その時に私は、次の2点を抛りどころとしたいと考えております。

まず、第1点目は、日本技術士会は公益社団法人であるということに立ち返るということです。

寺井 和弘

Terai Kazuhiro



公益社団法人 日本技術士会 会長

技術士（建設／上下水道／衛生工学／総合技術監理部門）
（株）建設技術研究所 代表取締役副社長

これは公益目的事業を実施する団体であるということではなく、私たちの目指す公益とは何なのかということを常に問い返すということです。例えば、更新制度や資格活用の方向性が、わが国の科学技術イノベーション推進にどのように貢献するのかということをおロジックとして説明できなければならないと考えます。このことにより、日本技術士会内部での合意形成にとどまらず、広く社会に受け入れられる法人として認知されていくものと思います。

2点目は、21の技術分野の多様性を統合的に活かしているかという点です。複雑化する地球規模の課題に対して、個々の専門性を有する技術士が協働し、総合的な知見をもって課題解決を提示できる仕組みと活躍する場が必要です。技術士の皆様、その技術力を存分に発揮され、生き生きと社会貢献できるための制度改革であり、資格活用でなければならないと思います。

技術士制度改革の方向性は定まっています。新体制に課せられた役割は、この方向性をしっかりと踏襲し、具体的な一歩を踏み出すとともに、この改革をスピーディに進めることだと思っております。

改革に混乱はつきものですが、この改革の方向性が、技術士そのもののプレゼンスの向上ひいては、国内外の公益への貢献に繋がるんだということをお共通の認識としながら、会員の皆様とともに、歩んでいきたいと考えています。

私たちがこれまで培ってきた技術士としての倫理観、理念、価値観といった内発的なものによる行動は必ずや公益に結び付くものと確信して、私の会長就任のご挨拶とさせていただきます。